

2024 年度 事業報告書

特定非利活動法人 ピッコラーレ

1 事業の成果

相談者・利用者に安心して利用してもらえる窓口・居場所であり続けるために、24年度も前年度に引き続き、各事業で展開している既存の窓口・居場所の安定運営を目標に、人材育成にも目を向けながら活動を進めてきた。

妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」は、「まだ繋がりがきれっていない若年者と繋がる」を継続テーマに据え置き、23年度に導入開始したチャット相談の安定運営および対象者をより明確にしたデジタルアウトリーチに取り組んだ。結果として相談者数の総数および面談・同行支援数ともに昨年度比で減少したが、12月中旬～3月にSNSにてハイリスクに絞ったデジタルアウトリーチを実施したところ、この期間に置ける同行支援の件数に増加がみられた。同行支援が必要なケースは、短期間で他の民間支援団体を含む複数の関係機関との連携が必要になる場面が多く、相談者にとって必要な社会資源に確実に繋げるために、現場では丁寧なやり取り・調整力が求められている。

中絶後の相談窓口「PUPU」は、相談件数の増加傾向が毎年続いており、24年度は前年比1.2倍であった。高い社会的ニーズにピッコラーレとしてどのような形で応えていくか、今後議論を進めていきたい。24年度注力したいと考えていた育成サポートについては、様々な理由から体制を十分に整えることができず、計画通り遂行することができなかった。これからも引き続き、相談者にとって垣根の低い、相談しやすい窓口であり続けるための礎である「チームで支援に当たる体制」を継続・アップデートし続けるためにも、来年度は体制を整え、研修事業などとも連携しながら人材育成を行っていきたい。

研修事業については、柱である支援者育成研修(研修A&B)の開催を今年度お休みとし、運営体制等の立て直しの時間にあて、25年度の再出発に向けて準備を進めることができた。また、新たな取り組みとして包括的性教育講座(オンライン)を開催し、延べ150名近い方々に参加いただくことができた。ターゲットの振り返りなどを行い、来年度また新たな展開を模索していきたい。

政策提言については、代表による行政府の委員会出席などを通して現場の声を発信してきた。各地から入る視察(行政・議員・支援団体)等の問い合わせにもできる限り対応し現場の気づきをお伝えしてきた。「妊娠葛藤白書」については、緩やかに売れ続けている。来年度も同様の活動を継続していきたい。

projectHOME(居場所事業)で展開している「ぴさら」(居所のない妊婦のための宿泊型居場所)は、開始から5年が経過。行政からの利用問い合わせが途絶えず、24年度は初めて100%の稼働率となった。増えるニーズにどのように応えていくか、受け入れ部屋数など含め、中期的視点で検討が必要なタイミングにきている。アフターケアについては、「ひだまり食堂」などグループで集まる機会の開催、また個別の相談やショートステイ、アウトリーチ対応など様々な方法で「ぴさら」卒業後のサポートをしている。アフターケアの活動はニーズが高く、今後の広がりを考え、4月以降新たな拠点を追加し活動していく。

「ピコの保健室」(包括的性教育)・「ぴこカフェ」(女の子/女性のための居場所)も開始から4年が経過、活動を知った行政や民間団体からの視察・見学を今年度も数多く受けてきた。性のこと・人間関係のことなど、深刻さの大小によらず質問したり相談できる場や信頼して話ができる人の存在の大事さを居場所運営を通して実感している。

2025年度は「にんしんSOS東京」開設から10年となる。ここまで、様々なステークホルダーに協力いただきながら、現場で必要な活動を継続・発展させてくることができた。これからも現場のニーズに応え、「誰もが孤立せず、自由に幸せに生きていける社会」の実現に貢献していくためにも、この節目の年に、現在組織の注力テーマに上がっている「人材育成」について団体としてしっかり取り組める新たな1年としたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業 (事業費の総費用【 112,039 】千円)

定款に記	事業内容	日時	場所	従事者	受益対象者	受益対象者	事業費(千円)
------	------	----	----	-----	-------	-------	---------

載 され た 事 業 名				人数	範囲	人数	
性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業	●妊娠葛藤相談窓口の運営 1.にんしん SOS 東京 2.にんしん SOS 埼玉 3.にんしん SOS ちば ※産む・産まない、育てる・育てないにかかわらず、にんしんにまつわる全ての「困った」「どうしよう」に寄り添う	【相談窓口開設時間】 1.にんしんSOS東京(自主運営):365日16:00～23:00(電話),週3回各2時間(チャット相談) 2.にんしんSOS埼玉(埼玉県より委託):365日16:00～23:00(電話) 3.にんしんSOSちば(千葉県より委託):365日16:00～23:00(電話),週3回各2時間(チャット相談) ※3つの窓口共通: ・メールは24時間年中無休で受付 ・必要に応じて医療機関や行政等への面談・同行支援を実施	【相談受付方法】 メール・電話・チャット※チャット相談は「にんしんSOS東京」「にんしんSOSちば」で実施 ※面談・同行支援については相談者が居住する地域にアウトリーチ	約40名	日本全国	【妊娠葛藤相談窓口】 ・相談人数約3,214人 ・相談延べ対応回数:約9,552回 ・面談/同行支援回数:約31回 ※いずれも3つの窓口の合計数	61,167
	●中絶後の相談窓口の運営	【相談窓口開設時間】 メールにて24時間年中無休で受付(返信対応は1回/週)	中絶後の相談窓口は、メールのみで受付			【中絶後の相談窓口】 ・相談人数約143人	
	●「妊娠葛藤白書」販売(2021年4月1日発行) ●「妊娠葛藤白書」他を活用した政策提言活動	通年	オンライン販売・配布 提言先:厚労省・子ども家庭庁他	約5名	日本全国	「妊娠葛藤白書」販売数:57冊	
	●包括的性教育講座(オンライン)実施	1.性を知ること自分自身を大事にすること 7/20, 3/13 2.性を知ること自分自身を大事にすること(性暴力編) 9/14 3.子どもの性にまつわるSOSってどんなこと? 11/28, 3/2	オンライン			7/20:31名 3/13:26名 9/14:26名 11/28:53名 3/2(対面):12名	

	●妊娠葛藤を取り巻く課題を啓発するための講演活動・視察対応	行政、医療機関、民間団体、企業などからの講演、依頼に応じて	オンライン・会場、ハイブリット	約10名	日本全国	約4,000人	
青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業	●居所のない妊婦のための居場所づくり「project HOME」 1.「びさら」の運営 2.「びさら」卒業生のアフターケア 2.他地域で妊産婦の居場所運営を行っている団体との共同勉強会実施 3.日本子ども虐待防止学会(かがわ大会)発表 ●ピコの保健室 主に10代を対象とした包括的性教育の継続的実践 1.来所型 2.出張型 ※他機関(学校や地域のユースセンター等)と連携した出張型保健室 ●びこカフェの運営 主に10・20代の若年女性を対象に、安心して相談もできる居場所の運営(豊島区より委託) ※生理用品の無料配布等を通して、体のこと、関係性、パートナーシップなどについての相談機会も積極的に提	通年 数回/年 2024/11/30 【ピコの保健室開催日】 1.来所型:随時 2.出張型:各施設で月1回程度 3.講演型:依頼に応じて 【びこカフェ開催日】 ・月2回(第2火曜日、第4日曜日)14:00~18:00	豊島区 オンライン 会場(香川) 豊島区 豊島区を中心に関東圏 池袋サンシャインシティ内:ソラリウム	約30名 約4名 約4名 約5名 約15名	関東圏を中心に日本全国 日本全国 日本全国 豊島区を中心に関東圏	【びさら/アフター】 ・びさら宿泊利用人数(妊婦8人, 新生児8人) ・アフターケアのショートステイ 9回, 利用人数(産後3人, 幼児5人) ・アフターケアのデイ利用(グループ/個別対応) 79回 利用人数:約40人 【共同勉強会】 実施回数:3回 延べ参加人数:約40人 【学会発表】 参加者数:約100名 【ピコの保健室】 1~2合計: 約140人 出張保健室:36回開催 【びこカフェ利用者数】 ・約217名	50,872

	供						
--	---	--	--	--	--	--	--